

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（令和4年4月1日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 津田 純嗣（令和3年9月27日就任）

4 基本財産

2,059,136千円（設立時の基本財産 2,416,798千円）

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円（出捐の割合 68.3%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11人	0人	1人	10人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	10人	0人	0人	10人
職 員	58人	6人	0人	52人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 令和3年度事業実績

【概況】

MICE分野では、毎年恒例の自主事業の実施やコンベンションなどの誘致・開催、貸館営業のほか、夏季のにぎわいイベントの実施などに積極的に取り組んできたが、前年からの新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の感染拡大により、引き続き、業績全体への大きな影響がみられた。令和3年度は、前年度比で利用実績に改善の傾向はみられるが、コロナ前の水準には至っていない。

観光分野では、観光客誘致・滞在化促進のため、オンライン等を活用しながら、国内外へのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。国内観光客は若干の回復傾向がみられるものの、おみやげ等の物販については大幅な改善は見られず、MICE分野

同様、新型コロナは引き続き業績へ多大な影響を与えている。

経営面においては、新型コロナの不透明な状況が、協会運営の喫緊の課題となっている。当面は、コスト管理の徹底と国等の支援策の活用、北九州市との対応策の連携等を行いながら、今後の事業展開に向けた準備を行い、中長期的な競争激化への対応も踏まえ、自立した経営を維持・強化しなければならない。

見本市・展示会事業

1 主催・共催事業

(1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与することを目的に、国や地域の行政機関等と連携し、各種の見本市・展示会等を企画・開催している。令和3年度は新型コロナの影響が継続したものの、感染症防止対策を施すとともに、オンライン等の開催手法を取り入れながら、見本市・展示会事業を実施した。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

※（ ）内は令和2年度実績

事業名		開催期日	入場者数	出展社数
課題解決EXPO	西日本製造技術イノベーション2021	6月30日～7月2日	8,568人 (オンライン 7,955ビュー)	52社・団体 (中止)
	第47回ふくおか産業技術振興展			23社・団体 (中止)
	エコテクノ2021～地球環境ソリューション展～			23社・団体 (オンライン 37社)
	エコテクノ2021～エネルギー先端技術展～			29社・団体 (オンライン 49社)
	エコ・ベンチャー・メッセ2021 &アカデミックコーナー			29社・団体 (中止)
中小企業テクノフェア in 九州2021			53社・団体 (オンライン 30社)	
第43回西日本陶磁器フェスタ		9月16日～20日	31,889人(30,765人)	210社・団体 (149社・団体)
P.P.C.2021 第23回西日本国際福祉機器展 (ハイブリッド)		11月18日～20日 (+オンライン開催)	2,631人オンライン8,841ビュー (オンライン 22,342ビュー)	53社・団体 オンライン 54社・団体 (オンライン 119社・団体)
合計		8事業 +オンライン1事業 (開催1事業 オンライン3事業)	43,088人 オンライン8,841ビュー (30,765人 オンライン30,297ビュー)	開催472社・団体 オンライン54社・団体 (開催149社・団体 オンライン 235社・団体)

【外部環境が変化する中での展示会開催に向けた主な取り組み】

ア 産業系展示会の集約とマーケティングオートメーションの導入

新型コロナ感染拡大の状況を受け、県外からの展示会への来場が見通せない中、一部事業を集約するなど、効率的な展示会運営に取り組んだ。他にも、デジタル技術を活用することで来場者の集客に努めた。

○ 既存展示会の集約

「西日本製造技術イノベーション」「ふくおか産業技術振興展」「エコテクノ」「エコ・ベンチャー・メッセ」「中小企業テクノフェア in 九州」を集約した、「課題解決EXPO2021」を開催した。開催にあたっては、マーケティングオートメーションを利用して、事前マッチングを行う

など、新技術を利用した取り組みを行った。

○ 西日本陶磁器フェスタの開催

全国の陶磁器販売イベントが中止・延期される中で、販売機会の確保を目的として、西日本陶磁器フェスタを開催し、北海道から鹿児島まで全国 164 の窯元が出展し、良質な手づくり作品を広く紹介することで、地域の賑わいづくりと産業振興に取り組んだ。

イ ウィズコロナにおける展示会のあり方について

ウィズコロナにおける展示会のあり方を模索し、オンライン技術を活用した展示会開催を進めた。

○ セミナーのオンライン開催

「西日本製造技術イノベーション」においては、セミナー講師のオンライン登壇や、YouTube を活用したセミナー同時配信等、コロナ前にはなかった情報発信を実現した。「エコテクノ」では、来場者の関心を事前に高めるため、展示会 1 か月前にセミナーを 3 テーマ、プレゼン 1 テーマをホームページにて配信した。

○ ビジネスマッチングの最大化の取り組み

「中小企業テクノフェア in 九州」においては、「シーズ説明会」「提案スキルアップ研修」をオンラインで開催することにより、遠方の出展社の参加促進や、利便性の向上を図った。また、出展社のプレゼンテーションを会場内モニターで放映することで、来場者の出展者ブース訪問を促進した。また、展示会に来場した受注企業と遠隔地の発注企業を結ぶ、リアルとオンラインのハイブリッド型商談会「製造技術マッチングフェア」を開催した。

(2) 主催・共催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。

(53 テーマ、参加者数 2,130 人)

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、福岡県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) 国際化の推進

ア 韓国 BEXCO（釜山国際展示場）との MOU 事業

MOU を締結している BEXCO と良質な友好関係を構築してきたが、相互交流が難しくなっているため、状況が改善されるのを待ちつつ、今後の取り組みを検討する。

イ 展示会の国際化

コロナ禍により、海外との往来ができない中、オンラインを活用して海外との取引拡大の機会を提供することに注力した。

(西日本国際福祉機器展、エコテクノにおける海外出展者数 合計 4 社【全て韓国】)

(3) 新たな価値創造を目指した見本市運営

コロナ禍でライフスタイルが大きく変化する中、ニーズに応じた展示会の開発を進めるため、既存の展示会に付帯する形で小規模な展示会の企画検討を行った。

また、見本市・展示会運営の将来を担う若手担当者のスキルアップを図るため、九州で公的

な展示会を主催する団体と定期的な発表交流会を開催した。

会議・大会等

3 誘致・支援事業

(1) 北九州市では、日本政府観光局(JNTO)の企画事業への積極的な参加による連携強化や、地元及び首都圏等の学会・大会等のキーパーソンとのネットワークの深化・拡大への取り組みを進め、グローバルMICE推進協議会との連携による海外セールス、商談会への参加等を行い、積極的な誘致活動を推進した。コロナ禍で、新規の案件開拓が困難な中、JNTOおよび日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)主催の「国際MICEエキスポ(IM E)」等各種オンライン商談会を積極的に活用し、学会・大会等のキーパーソンへ向け本市で会議・大会を開催する魅力、メリット等を発信し誘致を行った。

これらの誘致活動および開催助成金の効果的な活用の成果として、令和4年度以降に合計170件(令和4年3月31日現在)のコンベンションが予定されている。

なお、観光庁作成の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、令和3年度の当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果(間接2次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は20億7,280万円であった。

◆年度別開催件数の推移 (単位：件)

区分	国際	全国	その他	合計
R3年度	1	49	61	111
R2年度	0	30	39	69
R1年度	127	73	116	316

◆年度別参加者数の推移 (単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
R3年度	560	22,980	11,535	35,075
R2年度	0	12,077	5,088	17,165
R1年度	72,088	75,745	50,288	198,121

◆令和3年度開催の主な会議・大会

規模	名称	開催時期	会場	参加人数 (オンライン(外数))	海外からの参加国数
国際	Global Offshore Wind Summit-Japan2021	R3年10月	北九州国際会議場	560人 (340人)	4カ国 (10カ国)
全国	(社)茶道裏千家淡交会北九州支部創立80周年・青年部創立55周年記念大会	R3年4月	リーガロイヤルホテル小倉	1,150人	

	第 46 回日本小児眼科学会総会	R3 年 6 月	北九州国際会議場	150 人 (970 人)	
	第 13 回日本創傷外科学会・学術集会	R3 年 7 月	北九州国際会議場	662 人 (538 人)	
	第 69 回日本 PTA 全国研究大会北九州大会 第 66 回日本 PTA 九州ブロック研究大会北九州大会	R3 年 8 月	北九州国際会議場	188 人 (5,833 人)	
	第 31 回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会	R3 年 10 月	北九州国際会議場	161 人 (1,429 人)	
	第 20 回日本睡眠歯科学会総会・学術集会	R3 年 11 月	北九州国際会議場	636 人 (370 人)	(2 カ国)
	第 4 回 IgG4 関連疾患国際シンポジウム 第 13 回日本 IgG4 関連疾患学会	R3 年 12 月	北九州国際会議場	210 人 (330 人)	(8 カ国)
	第 34 回日本外科感染症学会総会学術集会	R3 年 12 月	北九州国際会議場	640 人 (769 人)	(5 カ国)
	電気学会 誘電・絶縁材料／放電・プラズマ・パルスパワー／高電圧合同研究会	R4 年 1 月	北九州国際会議場	106 人 (114 人)	(4 カ国)
	International Conference and Workshop-Designing Post-Pandemic University Campus-	R4 年 3 月	北九州学術研究都市	195 人 (552 人)	(6 カ国)
	第 3 回ニューロモルフィック AI ハードウェア国際シンポジウム	R4 年 3 月	プレミアホテル門司港	240 人 (210 人)	(13 カ国)
	The 3rd International Conference of iSMART : Urban regeneration in post-pandemic era	R4 年 3 月	北九州市立大学 ひびきのキャンパス	252 人 (211 人)	(3 カ国)
	International Symposium on Applied informatics Innovations (ISAI2022)	R4 年 3 月	北九州国際会議場	54 人 (90 人)	(2 カ国)
九州 西日本	第 7 回福岡県診療放射線技師会学術大会	R3 年 6 月	北九州国際会議場	230 人 (442 人)	
	みちづくし in 北九州 2021	R3 年 11 月	A I M	486 人 (190 人)	
	第 10 回日本言語聴覚士会九州地区学術集会福岡大会	R4 年 1 月	北九州国際会議場	156 人 (890 人)	

※会議規模については、現地参加者により判断した。

【主な取組】

○誘致営業

通常の誘致活動に加え、関係機関との連携や人的ネットワークの維持にオンラインを取り入れた。

コロナ禍においては、先行きが不透明で、特に国際会議は開催地や開催方法の決定が困難な状況ではあるが、いくつかの案件が誘致に繋がった。

○スポーツ誘致

積極的な誘致活動を行い、コロナ禍の中、約 70 の国・地域の選手が参加し、100%有観客で行われ高い評価を得た、2021 世界体操・新体操選手権北九州大会をはじめ、第 30 回東アジアホープス卓球大会、JOC ジュニアオリンピックカップ第 41 回全日本ジュニアバドミントン選手権大会、第 49 回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会等、57 件、延参加人員 4.1 万人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。今後は昨今注目され競技人口が

増えているeスポーツにも範囲を広げ、誘致活動を行っていく。

○グローバルMICEの推進強化

国際会議協会ICCAをはじめとした、これまでに培ってきた国内外の関係団体とのネットワークを活用しながら、国際会議誘致やオンラインMICE商談会への参加など積極的な事業展開に取り組んだ。

令和3年度も、新型コロナの影響により、各種現地商談会が開催されない状況が続いたが、オンラインで開催された「国際MICEエキスポ(IME)」に参加し、国内外のキーパーソンや学会主催者と商談を実施した。

○ローカルホストとの連携強化

大学等との「コンベンション誘致・開催に関する連携協定」に基づき各大学の教授会でMICE説明会を開催し、連携強化を行った。

(2) 主催・共催事業については、国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを企画していたが、新型コロナの感染拡大防止のため、令和3年度は前年に引き続き、中止、または誌上開催とした。

◆イベント・大会等の企画、開催(主催・共催)

※()内は令和2年度実績

事業名	開催日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイトinこくら	中止	-人 (-人)
第27回北九州将棋フェスティバル	中止	-人 (-人)
第21回全国俳句大会in北九州	誌上開催	806人 (853人)

※俳句大会の入場者数は事前投句応募者数

貸館利用者の誘致・営業強化

4 営業体制の強化

(1) リピーターの安定及び効率的稼働への取り組み

既存利用者の催事の延期や中止について、利用者のニーズに沿った日程の提案を行った。また、過去の利用者や潜在的な利用者の掘り起こしを目的に、「エコテクノ」の来場者向けダイレクトメールに会場利用促進のチラシを同封し、会場利用の促進に取り組んだ。

(2) 新規利用者の開拓

テレビ局や音楽プロモーターとの連携を深め、1件の新規コンサートの誘致に成功した。各種試験については、感染対策が施された広い会場のニーズが高まったことなどから、5件の試験催事が開催された。その他にもランドセル展示会や自衛隊任期制隊員向けの就職説明会など今後も継続して利用が見込める催事を開拓するとともに、新館・本館を同時利用する大規模催事も獲得することができた。

(3) 主催者等への各種支援の実施

新規及び大規模利用主催者に対して、集客広報や代理申請手続きなどの各種支援をするとともに、新型コロナによる施設の利用状況の変化に伴い、安心・安全な会場利用の再開を促すため、サーキュレーターの追加導入に加え、空気消臭除菌装置を新規導入するなど環境整備に努めた。

◆令和3年度 新規展示会・見本市等の誘致実績

催事名		催事名	
情報処理技術者試験/情報処理安全確保支援士試験	R3年4月	世界新体操2021	R3年10月
合同ランドセル展示会2021	R3年6月	2級管工事施工管理技士国家試験	R3年11月
自衛隊任期制隊員合同企業説明会	R3年8月	多肉フェスティバル(多肉食植物の販売ほか)	R3年12月
櫻坂46 全国アリーナツアー2021	R3年9月	弘学館中学校・高等学校入学試験	R4年1月
伝統文化イベント(ステージ・ワークショップ)	R3年9月	ノートルダム清心女子大学入学試験	R4年2月
情報処理技術者試験/情報処理安全確保支援士試験	R3年10月	フォーデイズ春2022 in 福岡	R4年3月

5 「営業推進本部」の取り組み

コロナ禍において、施設稼働に関する最新情報の共有を徹底するため「営業推進本部」の機能強化を推進し、会場の利用促進・サービス向上に努めた。特に、閑散期における集客にぎわいイベントについては、前年度、新型コロナの影響で中止となった「いきものキングダム in 北九州」の開催などの成果を生んだ。また、ミクニワールドスタジアム北九州との連携についても引き続き取り組み、次年度の事業実施に向けた情報収集に努めた。

◆令和3年度 閑散期対策イベント等

催事名	会期	入場者数
いきものキングダム in 北九州 2021	R3年7月22日～8月22日	41,263人
トミカ博 in KITAKYUSHU 2021	R3年7月16日～21日	中止

広報・宣伝、地域連携

6 広報、宣伝

ホームページでのイベント情報・施設紹介、協会主催事業やコンベンション誘致に関する情報の提供を行ったほか、「北九州観光イベントだより」を新たに発行し、集客に活用した。

また、北九州市の玄関口であるJR小倉駅では、令和3年度より新幹線口ペDESTリアンデッキに設置されたデジタルサイネージを用いて施設PRを行った。

7 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、交流イベントや地域清掃活動等の実施、「こくらマップ」のMICE参加者への配布等、地域の活性化・にぎわいづくりに取り組んだ。

また、JR主要駅に近接する施設の特徴を生かすため、JR九州・JR西日本と連携し、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

8 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用者に対して、そのニーズを的確にくみ取り、丁寧な対応を心掛けた。特に新型コロナ感染拡大防止の観点から、ネットワーク機器をオンライン・ハイブリッド開催に適応したものに更新し、また、感染対策用機器の無料貸し出しも継続実施した。さらに、展示場新館のトイレショールーム化や会議場の抗菌・抗ウイルス対策等、利用者満足度向上に向けた取り組みを行った。

(2) 職員の資質・能力の向上・人材の確保

職場におけるQC活動を通じ、利用者への接遇マナーについて職員相互の情報共有を図ることで顧客満足度を高めることに努めた。また、オンライン研修を積極的に取り入れ、「国際会議場施設協議会」「全国展示場連絡協議会」などの外部研修にも参加した。その他、北九州市主催の建築物の日常点検に関する研修も受講し、施設管理者としての見識を深めた。

9 管理業務の効率化

施設の予約受付や利用調整等をスムーズに行うため、プロジェクトチームを組み、「施設予約管理システム」の開発を進めた。

10 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上等のため、施設設備の改修更新等を行った。

【主な実施内容】展示場本館：屋根防水改修工事等

展示場新館：照明LED化工事、トイレのショールーム化工事、ロビー椅子座面を小倉織に張替、ガレリア大型ディスプレイ入替等

国際会議場：高層階ライトアップ照明更新工事及び、イベントホール小倉織タペストリーの設置等

11 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数（件）	稼働日数（日）	稼働率（％）	入場者数（万人）
R3年度	24	333	91.5	17
R2年度	23	234	67.2	8
R1年度	61	308	88.0	27

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数（件）	稼働日数（日）	稼働率（％）	入場者数（万人）
R3年度	121	233	65.6	25
R2年度	89	224	64.2	12
R1年度	171	274	78.3	57

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数（件）	稼働日数(日)	稼働率（％）	入場者数(万人)
R3 年度	471	301	83.8	3
R2 年度	338	226	61.9	2
R1 年度	536	323	91.0	7

12 指定管理

指定管理期間の3年目であった令和3年度は、新型コロナの感染拡大に伴う緊急事態宣言等の発出による施設の休館・時短措置やイベント開催制限、利用者の開催自粛等があり、指定管理計画に掲げた目標（来場者数（展示場・会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）の達成に至らなかった（来場者数45万人、コンベンション誘致件数161件など）。

令和4年度についても、新型コロナの収束時期が見通せない状況下にあるが、計画的・組織的な取り組みを進める。

観光客の誘致及び滞在化の促進

13 観光客誘客事業・滞在化促進事業

北九州市及び観光関連企業で組織する「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を通じ、本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。その他、北九州市の緊急経済対策関連事業に係る助成金等の支給窓口業務を通じて、観光関連事業者への支援を行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

戦国パーク2022（熊本・3月19日～20日）や羽田空港イベント（3月26～27日）へ出展し、観光PRを行った。

日本新三大夜景都市への再選出を目指し、様々な情報媒体を通じたPRを強化した結果、3月25日に札幌市で開催された「夜景サミット」において、「北九州市の夜景」が前回3位から躍進し、ランキング第1位で再認定された。

【緊急経済対策関連事業】

新型コロナの感染拡大を受けて、緊急経済対策関連事業を実施した。

【北九州市国際観光推進協議会事業】

オンライン・リアル事業を通じ外国人観光客の誘致を図った。

【北九州産業観光センター実行委員会事業】

修学旅行を担当する旅行代理店へ向けて、市内宿泊を伴う旅行、市内での食事・有料施設利用を伴う旅行等に対する助成事業についてPRを行った。

14 修学旅行誘致助成事業

修学旅行を担当する旅行代理店へ向けて、市内宿泊を伴う旅行、市内での食事・有料施設利用を伴う旅行等に対する助成事業についてPRを行った。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

15 企画広報宣伝・情報収集調査事業

機関誌・観光関連書籍の発行やホームページの運営等により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

観光に関する人材の育成及び啓発

16 百万にこここホスピタリティ運動

新型コロナの影響により、前年に引き続き、協賛金募集を見送ったため、予定していた各観光事業者の海外の観光客のおもてなし活動の取組紹介や、観光事業者のスキルアップに向けたセミナーの開催及び観光用マップの制作などの実施を見送った。

17 観光案内ボランティアの養成及び派遣

(1) 観光案内ボランティア制度運営

例年、旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動や、ガイドのレベル向上のため観光案内ボランティア研修会を開催しているが、令和3年度は前年に引き続き、新型コロナの影響により、ガイド活動の一時休止や研修会の中止を余儀なくされた。

① 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

・ガイド件数 282件 ・ガイド人数 3,505名 ・活動者数 417名

② イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動及び観光案内ボランティア研修会

・新型コロナの影響により、全て中止

(2) 北九州観光市民大学

期 間 11月4日～2月3日 計13回

受講者数 23名（うち、北九州市観光案内ボランティア登録者7名）

特産品の紹介・宣伝

18 特産品の紹介・宣伝

(1) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等

・北九州観光市場（発注件数 535件） ・Yahoo!ショッピング（発注件数 357件）

・ふるさと北九州市応援寄附金返礼品（受注件数 868件）

(2) 大規模イベント会場での臨時売店設置

新型コロナの影響で例年参加していた殆どの催事開催が見送られたが、時期的に開催が実現した競輪祭に参加し地場産品をPRした。

観光に関する施設の管理運営

19 観光案内所運營業務

【北九州市観光案内所運営協議会】

北九州市、JR九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内3箇所の観光案内所におけるサービス強化を図った。

令和3年度は、北九州市総合観光案内所（JR小倉駅内）のリニューアルを行った。また、新型コロナ対策を徹底した上で来所者サービスに努めた。

《案内件数》

北九州市総合観光案内所：31,476件、門司港駅観光案内所：4,976件

北九州空港総合観光案内所：7,432件

【北九州産業観光センター】

北九州産業観光センター（北九州市、北九州商工会議所、当協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、毎年産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行ったが、令和3年度も前年に引き続き、新型コロナの影響により、視察やツアー等の多くが中止となった。

《参加状況》産業観光視察（0件0名）、工場夜景ツアー（クルーズ、バス）（2件85名）

工場夜景定期クルーズ（34件775名）

20 土産品・特産品売店の管理運営

門司港レトロ地区における主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営している。令和3年度は、新型コロナによる緊急事態宣言の発出により3度休業を行ったが、営業再開に際して、ガイドラインに基づき、パーテーションや消毒液の設置、営業時間の短縮等の感染拡大防止対策を行った。また、北九州市や商工会議所が地域消費喚起策として発行した、地域共通クーポンの取り扱い店舗となり、販促に努めた。

さらに、運営を受託しているTOTOMミュージアムショップについても、「北九州おみやげ館」同様の対応を取り、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

21 小倉駅イベント広場等の管理運営 - JAM広場、JAMビジョン -

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場について、新型コロナ関連のモニタリング検査や、観光物産展などへの貸し出しを行った。また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発CMや観光情報、広告CM等の放映を行った。

Ⅲ 令和3年度決算

1 貸借対照表(総括表)

令和4年3月31日現在(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	806,733,422	748,218,721	58,514,701
売掛金	8,237,197	8,897,014	▲ 659,817
未収金	50,902,205	140,763,348	▲ 89,861,143
棚卸資産	3,640,900	3,989,003	▲ 348,103
貯蔵品	387,088	810,134	▲ 423,046
前払金	1,056,823	688,883	367,940
立替金	1,189	28,612	▲ 27,423
仮払金	14,515,379	17,141,534	▲ 2,626,155
流動資産合計	885,474,203	920,537,249	▲ 35,063,046
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	305,887,248	342,349,448	▲ 36,462,200
建物付属設備	1	1	0
構築物	4	4	0
機械及び装置	10,730,808	18,818,474	▲ 8,087,666
基本財産引当資産	761,341,290	761,261,282	80,008
減価償却引当資産	981,176,180	984,997,371	▲ 3,821,191
基本財産合計	2,059,135,531	2,107,426,580	▲ 48,291,049
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	180,084,504	182,451,557	▲ 2,367,053
減価償却引当資産	9,374,822	13,015,822	▲ 3,641,000
目的事業引当資産	625,112,525	625,112,525	0
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	192,000,000	192,000,000	0
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
広報宣伝強化費用準備資金積立資産	0	10,000,000	▲ 10,000,000
特定資産合計	1,089,221,851	1,105,229,904	▲ 16,008,053
(3) その他固定資産			
建物	3,421,765	3,664,883	▲ 243,118
建物付属設備	381,006	452,644	▲ 71,638
構築物	902,238	1,116,942	▲ 214,704
車両運搬具	1,184,691	2,006,680	▲ 821,989
什器備品	5,666,897	7,267,944	▲ 1,601,047
機械及び装置	1,326,990	1,666,835	▲ 339,845
ソフトウェア	25,073,961	29,206,576	▲ 4,132,615
繰延税金資産(長期)	5,899,000	5,384,000	515,000
その他固定資産合計	43,856,548	50,766,504	▲ 6,909,956
固定資産合計	3,192,213,930	3,263,422,988	▲ 71,209,058
資産合計	4,077,688,133	4,183,960,237	▲ 106,272,104

Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	3,946,278	2,575,731	1,370,547
未払金	122,117,205	117,152,102	4,965,103
前受金	50,341,926	65,981,175	▲ 15,639,249
預り金	16,978,491	109,031,131	▲ 92,052,640
仮受金	177,400	45,000	132,400
未払法人税等	26,215,800	20,125,100	6,090,700
賞与引当金	12,626,733	12,055,770	570,963
流動負債合計	232,403,833	326,966,009	▲ 94,562,176
2. 固定負債			
退職給付引当金	180,084,504	182,451,557	▲ 2,367,053
預り敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	180,684,504	183,051,557	▲ 2,367,053
負債合計	413,088,337	510,017,566	▲ 96,929,229
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	278,411,670	301,651,800	▲ 23,240,130
基本財産運用益	5,341,290	5,261,282	80,008
指定正味財産合計	1,039,752,960	1,062,913,082	▲ 23,160,122
(うち基本財産への充当額)	(1,039,752,960)	(1,062,913,082)	(▲ 23,160,122)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,624,846,836	2,611,029,589	13,817,247
(うち特定資産への充当額)	(1,019,382,571)	(1,044,513,498)	(▲ 25,130,927)
(うち特定資産への充当額)	(909,137,347)	(922,778,347)	(▲ 13,641,000)
正味財産合計	3,664,599,796	3,673,942,671	▲ 9,342,875
負債及び正味財産合計	4,077,688,133	4,183,960,237	▲ 106,272,104

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日（単位：円）

	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	10,515,807	10,514,365	1,442
展示場設備受贈益	23,240,130	23,240,131	▲ 1
特定資産運用益	2,101,500	3,976,500	▲ 1,875,000
受取会費	8,376,500	8,954,000	▲ 577,500
事業収益	602,017,367	440,630,025	161,387,342
受取補助金等	362,273,537	410,181,464	▲ 47,907,927
受取負担金	47,774,395	35,819,424	11,954,971
雑収益	13,055,430	17,582,985	▲ 4,527,555
経常収益計	1,069,354,666	950,898,894	118,455,772
(2) 経常費用			
事業費	1,014,822,308	950,227,852	64,594,456
管理費	15,014,311	12,517,760	2,496,551
経常費用計	1,029,836,619	962,745,612	67,091,007
当期経常増減額	39,518,047	▲ 11,846,718	51,364,765
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	26,215,800	20,125,100	6,090,700
法人税等調整額	▲ 515,000	220,000	▲ 735,000
当期一般正味財産増減額	13,817,247	▲ 32,191,818	46,009,065
一般正味財産期首残高	2,611,029,589	2,643,221,407	▲ 32,191,818
一般正味財産期末残高	2,624,846,836	2,611,029,589	13,817,247
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	4,008,708	4,009,510	▲ 802
一般正味財産への振替額	27,168,830	27,169,633	▲ 803
当期指定正味財産増減額	▲ 23,160,122	▲ 23,160,123	1
指定正味財産期首残高	1,062,913,082	1,086,073,205	▲ 23,160,123
指定正味財産期末残高	1,039,752,960	1,062,913,082	▲ 23,160,122
III 正味財産期末残高	3,664,599,796	3,673,942,671	▲ 9,342,875

IV 令和4年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的な運営によるグローバル志向のMICEを誘致開催するとともに、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する観光事業の推進により、当地域の都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献していくことである。新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として先行きが不透明な状況であるが、収束と経済の回復を見据え、感染症予防対策に引き続き万全を期し、感染症に対して強靱な体制を構築するとともに、当協会の目的と役割を果たしつつ北九州地域の活性化を目指して、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

(1) 国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化

- ・北九州市等の政策を反映した自主事業の開催、ビジネスマッチング機能の強化、インキュベーション型自主事業の拡充、など

(2) 国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動

- ・国際会議のキーパーソンへのアプローチ、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など

(3) にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進

- ・西日本総合展示場新館・本館、北九州国際会議場の3施設一体管理による、にぎわい事業の実施と利用者の新規開拓、など

(4) 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供

- ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、ウィズコロナ時代に対応した安全・安心な施設利用環境の提供、など

(5) ウィズコロナ体制・情報発信・受入態勢の質を高め、観光客誘致を促進

- ・ウィズコロナを見据えた国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など

(6) 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成

- ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など

(7) 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築

- ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など

(8) 持続可能な施設運営に向けた環境経営

- ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和4年度は、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場の指定管理期間の4年目を迎える。新型コロナの影響により厳しい状況は続くが、これまでの指定管理者としての実績を活かし、指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携によるポストコロナに向けた取組を行い、指定管理計画に掲げる目標（令和4年度：来場者数（展示場新館・本館、国際会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）の達成に向け最大限努力する。

2 各論

協会主催事業の強化

(1) コロナ禍の出口を見越したハイブリッド型展示会の展開

ウィズコロナや企業の複合化した経営課題などに対応する形で主催事業を開催してきたが、オンラインによる商談などについては、全国的にみても評価される程の成果は上げていない現状が各所で報告されている。そこで、告知や集客などについてはオンラインを活用しつつ、商談など顔を合わせた方が、効果が高いとされている場面については、リアル（対面）を重視した形のハイブリッド型展示会を模索する。

《令和4年度開催の事業》

事業名		開催日	入場目標	出展目標
課題解決 E X P O	西日本製造技術イノベーション2022	7月6日～8日	10,000人	70社・団体
	第48回ふくおか産業技術振興展 (中小企業テクノフェア in 九州2022内)			20社・団体
	エコテクノ2022～地球環境ソリューション展～			60社・団体
	エコテクノ2022～エネルギー先端技術展～			40社・団体
	エコ・ベンチャー・メッセ2022			20社・団体
	中小企業テクノフェア in 九州 2022			60社・団体
第44回西日本陶磁器フェスタ		9月15日～19日	35,000人	200社
合計		7事業	45,000人	470社・団体

《企画内容の充実》

○ 「西日本DX推進フェア」の開催

地域が抱える社会課題の解決や新たな価値の創造に向けたデジタル技術活用による地域づくり構想「地域DX」において、地域の幅広い製造業・関連周辺企業・行政サービスのDX推進を目的とした企画展（企業展示やプレゼン・会場内セミナー）を実施する。

この企画展は、関連地域企業のソリューションPRおよび積極的な商談機会を効率的に創出するため「西日本製造技術イノベーション2022」内でFair in Fair型として実施とすることとし、地方で導入が遅れていると言われていたDXの導入促進を図る。

○ 「エコテクノ2022」での脱炭素化取組みの紹介

国の方針である2050年のカーボンニュートラルや、その前提となる2030年までの温室効果ガス47%削減達成に向けて、行政と連携し、サプライチェーンの再構築、再生可能エネルギー導入や蓄電池、エネルギーマネジメントシステムや地域マイクログリッドの導入など脱炭素化を進める技術・製品を積極的に紹介する。

《ビジネスマッチングの開催》

○ 主催事業における商談等の促進

地元企業の受注確保や新規取引先の開拓支援のため、行政関連団体、金融機関などの協力によりビジネスマッチングを開催する。

《国際ビジネスの推進》

○ アジアの関係団体等への出展誘致の促進

提携関係にある韓国釜山広域市のBEXCOと、オンライン展の利用状況やバーチャル商談会の成果などについて意見交換を行う。これまでの意見交換の中で、BEXCO側が導入した3D展示会のシステムについて情報提供を受けた。今後も提携機関との交流を継続し、アジアからの出展・集客を促進する。

(2) 展示会開発に向けた開催業務の効率化と人材育成の促進

ニーズや採算性が見込めない展示会については、再編を検討する。また、地域課題の解決と展示会による異業種交流や新規分野への参入支援を進めるため、生産性向上などの地域課題と、DX・物流・循環経済などを、今後の成長分野と捉え、新規展示会の開発に取り組む。また、運営業務の標準化と展示会周辺業務の外部委託により、出展社とのコミュニケーションを向上させ、効率的な展示会運営と人的資源の有効活用を図る。

コンベンション誘致の強化

(1) グローバルレベルの誘致強化

国内外の見本市・商談会へのオンライン参加などにより、北九州市でのMICE開催の魅力を積極的にアピールする。また国際会議協会（ICCA）に加入しており、ICCAを通じて北九州開催に適した会議の情報収集を行うなどグローバルレベルの誘致体制を整備する。さらに、SNSの活用による誘致情報の発信やホームページの更新などPRツールの充実を図る。

(2) 誘致営業活動についての取り組み

国際MICEエキスポ（IME2022）への出展や、北九州市MICE倶楽部首都圏交流会の開催などにより、商談への参加やキーパーソン等とのネットワークの継続・拡大を図る。コロナ禍においては、オンライン等の重要性が増したため、オンライン商談会の活用、動画を利用した広告配信等を行い、北九州市でのコンベンション開催について周知を行った。また、MICE開催助成金を効果的に活用し、スポーツ関係の誘致等にも弾みをつける。

(3) ステークホルダーとの連携

地元大学と締結した「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」や地元ステークホルダーと設立した「北九州市グローバルMICE推進協議会」を通じ、会議情報の共有やオンラインを含めた海外への誘致セールス、開催支援活動に取り組む。また、JNTOとの連携により国際会議を誘致した実績を活かし、JNTOとの連携を強化して誘致活動を推進するとともに、情報収集や北九州市の情報発信を図る。

(4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

会議支援制度の継続実施、多彩なアフターコンベンションの提案、ユニークバニエールの活用、主催者ニーズに応じたコンベンションボランティアによる支援、新型コロナウイルス感染症対策費用への一部支援など、MICE開催地としての総合的な魅力向上を図る。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) リピーターの利用再開、潜在顧客の掘り起こしの取り組み

リピーターの利用再開に向け、感染防止に必要な消毒・検温等を実施するハード面・ソフト

面の提案を行い、安全安心に利用再開できる環境整備を行う。年間複数回利用が見込まれるリピーターには、会場利用日程の年間提案やキャンセル・延期の代替日程を提案する等の調整を行うことで、利用再開につなげる。

(2) 新規利用者の開拓

展示会以外の新たな分野の利用開拓を進め、利用形態の多様化を図る。特に資格試験や入学試験などの試験会場や就職説明会場等としての利用促進を図る。

(3) 新しい会場利用価値の創造へ向けた取り組み

アフターコロナに向け、協会ホームページを活用し、開催後も継続して顧客と繋がることのできる仕組みを構築する。

(4) エンターテインメント分野の誘致

全国を巡回するスマートフォンのゲームや本格的なeスポーツの大会、地方展開を行っているサブカル的なアイドルやアニメ関連イベント、コンサート等のエンターテインメント分野の北九州開催を誘致することで、会場利用の促進と来場者の増加を図る。また、これらの誘致を促進するため、イベント主催者となるテレビ局や新聞社、プロモーターとの連携強化を図る。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

ホームページに加え、情報誌「北九州観光イベントだより」の発行、小倉駅JAMビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示など、開催告知・集客対策を中心とした会場利用者の支援につながる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献するため、ミクニワールドスタジアム北九州などと連携したイベントを検討するとともに、小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、来訪者向けの情報発信や地域の交流活動を通じた地域活性化に取り組む。

また、小倉中央商業連合会との連携により、魚町商店街内に歓迎バナーやポスターを積極的に掲出し、小倉駅南北の往来活性化を図る。

お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

アンケートやヒアリング等で寄せられた意見について協会内で検討し、改善・対応策をホームページで公開することで利用者との信頼関係を構築する。

また、オンライン会議に必要な設備・備品の整備など、ウィズコロナに対応した施設サービスの提供に努める。

(2) 職員の資質・能力の向上

顧客満足度向上のため、QC活動に注力する。接客マナーをはじめ、増加しているオンライン開催対応について、職員の対応能力向上を図る。

(3) 災害甚大化に対応する防災体制の検討

近年、自然災害による被害の甚大化が進んでおり、施設管理や災害時の危機管理が重要とな

っていることから、予防保全や危機管理体制の整備に努める。災害発生に備えて緊急時対応や連絡体制を構築し、利用者の安全、安心の確保に全力を尽くす。

(4) 施設・設備の改修等

LED等の高効率設備の導入や機器の更新による省エネ化を進める。

また、建物の壁面改修などの美観回復工事やオンライン会議への対応、感染症対策となる改修などに順次取り組むとともに、机・椅子等の備品類のメンテナンスに取り組む。

(5) 展示場本館の対応等

雨漏れの防止対策をはじめ、トイレ改修（洋式化）、中展示場・小展示場の空調システムの更新を検討し、美観回復と利用促進につながる改修を進める。

また、耐震改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

観光客の誘致及び滞在化促進

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

マイクロツーリズムなど、ウィズコロナに対応できる受け入れ態勢を構築するとともに、国や北九州市の経済対策メニューと連携した事業を展開する。

東アジアを中心とした海外に向けては、新型コロナの収束後（アフターコロナ）を見据えて、海外の旅行社へのオンライン商談会などを活用した、きめ細かな情報発信、セールスを継続的に実施する。

国内に向けては、ターゲットを絞った観光キャンペーンや旅行社へのセールス活動を行い、マイクロツーリズムの推進や夜型観光資源を活用した滞在化促進を目指す。

(2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、ウィズコロナに対応する修学旅行の増加に向けた独自メニューの開発や仕組みづくりを行い、旅行社へのセールスを実施する。

(3) 助成事業

国や北九州市の経済対策メニューと連携した助成金事業を実施し、北九州市への旅行商品の企画を促進する。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の観光情報やイベント・コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光イベントだより」の発行や北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、その結果をウィズコロナ・アフターコロナの観光客のニーズに合致する観光素材の開発やPR活動の強化に活かす。

観光に関する人材の育成及び啓発

観光客の受け入れ体制の充実を図るとともに、観光ボランティアについてもウィズコロナ・アフ

ターコロナに対応できる体制を構築する。

観光に関する施設の管理・運営

公益目的事業では、北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)、当協会で組織する「北九州市観光案内所運営協議会」において、市内4ヶ所にある観光案内所において官民一体となったサービス強化を図る。

収益事業では、門司港レトロ地区で運営する「北九州おみやげ館」において、同地区の中心的売店としてのPRを重点的に行い、また新商品や話題の商品等を考慮した品揃えの充実とキャッシュレスでの支払方法をより強化することで収益増を図るとともに、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営を行う。また、JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについては、北九州市の玄関口にふさわしいにぎわいの創出につながるイベントの実施や新たな顧客開拓につながる営業活動を行うことで収益増を目指す。

特産品の紹介・宣伝

北九州市の特産品紹介のパンフレットの作成・配布を行う。また、ホームページで特産品を紹介し、通販サイトで購入できるシステムの管理運営と、市内外で開催されるイベントや観光物産展への参加により、購入機会の提供を行う。

通販サイトでは、商品構成を随時見直し、よりニーズの高いラインナップを取り揃えるとともに、話題性の高い商品の発掘など、魅力あるサイト運営に努める。

また、MICE事業との連携として、北九州国際会議場Sea Loungeへの特産品の常設展示、小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場における臨時売店の出店を行う。

V 令和4年度予算

収支予算書(総括表)

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日 (単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1,192,000	377,000	3,930,000	0	5,499,000
展示場設備受贈益	17,662,000	5,578,000	0	0	23,240,000
特定資産運用益	1,993,000	109,000	0	0	2,102,000
受取会費	10,345,000	0	0	0	10,345,000
事業収益	298,205,000	454,539,000	0	0	752,744,000
受取補助金等	295,904,000	0	402,000	0	296,306,000
受取負担金	26,714,000	36,661,000	0	0	63,375,000
協賛金	500,000	0	0	0	500,000
雑収益	9,528,000	9,133,000	0	0	18,661,000
経常収益計	662,043,000	506,397,000	4,332,000	0	1,172,772,000
(2) 経常費用					
事業費	734,673,000	399,309,000	0	0	1,133,982,000
管理費	0	0	11,790,000	0	11,790,000
経常費用計	734,673,000	399,309,000	11,790,000	0	1,145,772,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 72,630,000	107,088,000	▲ 7,458,000	0	27,000,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 72,630,000	107,088,000	▲ 7,458,000	0	27,000,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	51,468,000	▲ 55,620,000	4,152,000	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	25,000,000	0	0	25,000,000
当期一般正味財産増減額	▲ 21,162,000	26,468,000	▲ 3,306,000	0	2,000,000
一般正味財産期首残高	1,883,119,558	465,546,982	▲ 44,706,623	0	2,303,959,917
一般正味財産期末残高	1,861,957,558	492,014,982	▲ 48,012,623	0	2,305,959,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	4,010,000	0	4,010,000
一般正味財産への振替額	17,662,000	5,578,000	3,930,000	0	27,170,000
当期指定正味財産増減額	▲ 17,662,000	▲ 5,578,000	80,000	0	▲ 23,160,000
指定正味財産期首残高	188,852,359	59,636,485	761,341,282	0	1,009,830,126
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	171,190,359	54,058,485	761,421,282	0	986,670,126
III 正味財産期末残高	2,033,147,917	546,073,467	713,408,659	0	3,292,630,043

VI 役員名簿

令和4年7月1日現在

役職名	氏名	備考
理事長	津田純嗣	北九州商工会議所 会頭
専務理事	近藤 晃	(公財)北九州観光コンベンション協会
理事	北里勝利	北九州市産業経済局長
//	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
//	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
//	今崎正明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
//	廣瀬 香	(一社)九州経済連合会 総務広報部長
//	関 宣 昭	NPO法人里山を考える会 代表
//	棟安正人	(株)リーガロイヤルホテル小倉 総支配人
監事	山本浩二	北九州市会計室長
//	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事